



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
私が知っているお金 駐日ジョージア特命全権大使 ティムラズ・レジャバ
- 4 インタビュー／扉を開く
熊谷晋一郎 東京大学先端科学技術研究センター教授、小児科医
共生社会へ導く「当事者研究」の可能性
- 9 地域の底力——秋田県男鹿市
利他の精神に根差した官民の取り組みが
あらたな風を吹かせる
- 16 対談／守・破・創
片岡仁左衛門 歌舞伎俳優
高田 創 日本銀行政策委員会 審議委員
歌舞伎の「心」を表現する芸は言葉の壁も超えて人を魅了する
- 20 FOCUS → BOJ ⑤ J-FLEC（金融経済教育推進機構）
多くの日銀職員が働く金融経済教育の最前線
日本銀行のレポートから
- 24 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）—2025年7月—
- 26 「地域経済報告」（さくらレポート）—2025年7月—
別冊「人手不足感が強まるもとでの地域企業の投資・事業戦略」—2025年5月—
- 32 トピックス
「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験
『パイロット実験』の進捗状況」を公表（5月）ほか
- 35 AIR MAIL from Washington, D.C.
政権交代と食事情——ワシントンD.C.から

表紙のことば

表紙の店舗は、日本銀行盛岡事務所が昭和二十年（一九四五）八月十日に駐在員事務所として開設した際に入居した、岩手殖産銀行（現在の岩手銀行）本店の建物です。

この建物は、日本銀行の技師時代に師弟関係にあった辰野金吾と葛西萬司（盛岡出身）の共同事務所設計で、中の橋が架かる中津川の畔に明治四十四年（一九一一）に盛岡銀行本店として竣工しました。その頃、盛岡で学生時代を過ごした宮沢賢治は「川と銀行木のみどり、まちはしづかにたそがる、」と荘厳な銀行建築を好んで詩につづりました。この建物が後に岩手殖産銀行に受け継がれます。

赤レンガの外壁は、事務所開設当時は白く塗装されていましたが、昭和三十三年（一九五八）に元の姿に戻され、平成六年（一九九四）には、現役の銀行建物として初めて国の重要文化財に指定されました。東日本大震災後には銀行店舗としての役割を終え、四年にわたる修復工事を経て、平成二十八年（二〇一六）からは「岩手銀行赤レンガ館」として一般公開されています。開設八〇周年を迎えた盛岡事務所は、これからも県民の皆さまに支えられ、岩手県経済の発展と共に歩んでまいります。

裏表紙の写真は、岩手銀行所蔵のものです。



表紙・画 北村公司